

前回まで3回にわたり尿検査について書きました。
今回から、梅雨時でもあるため細菌検査についてです。



微生物検査では、**材料の採り方と採った材料の保管の仕方によって検査の良否が決まります**。また最近では MRSA や多剤耐性緑膿菌も増加しており、普通の抗生剤が全く効かない症例も多くなっています。抗生剤選択が大変重要です。

細菌検査とは、細菌によっては特殊な染色(グラム染色)をしたり、1週間ほど培養しないと、発見できないものもあります。

検査対象となる材料は、基本的に組織が炎症を起こしている、あるいは発熱があるなどといった場合に採取します。これらの材料から感染症の原因を思われる細菌を見つけ出し、どのような抗生物質が有効かを検査します。

この検査を薬剤感受性検査といいます。

細菌検査はふつう検体の外観の観察、塗抹染色、培養、同定検査、薬剤感受性検査という手順で行われます。

一般細菌検査の培養・同定検査結果は、4~7 日後に報告します。ただし、血液培養は陰性報告までに1週間を要します。

採取時期は？

- 発病初期の抗菌薬投与前に採取
- 抗菌薬投与中の場合には次回投与の直前に採取
- 抗菌薬投与を中止できない場合には次回投与の直前に採取が基本です。

採取時の注意事項

- 常在菌の混入を避ける。(毛などには常在菌が多)
- 消毒薬の混入を避ける。
- 検査に必要な適切量を採取する。
- 適切な容器に採取する(無菌が最低条件)
- **検体採取者への二次感染や環境の汚染防止に配慮する**

細菌は私たちにも感染します。また、他の患者さんにも伝搬させてしまうので充分注意しましょう。

運送・保存時の注意事項

- 検体の乾燥を防ぐ
- 搬送時の環境汚染や二次感染を防ぐ(ジップ付きポリ袋の使用など)
- 直ちに提出できない場合には適切な保存条件で保存する。(原則4℃、一部例外あり)

良い検体採取で、正しい細菌検査結果が得られます。

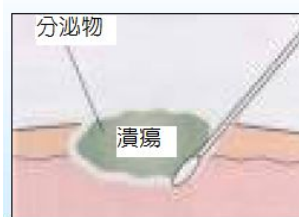
検体採取の手順

- 穿刺部位の消毒
あらかじめ患部周囲の皮膚を洗淨することにより、皮膚常在菌の混入を最小限にできます。
- 経皮的穿刺
穿刺部位を消毒する。
滅菌注射器を用いて経皮的に穿刺吸引する。
- ドレナージ
ドレイン内に長時間滞留していたもの、バック内に貯留されていたものは、汚染菌混入の可能性や嫌気性菌の検出率低下が懸念されるため検査材料には適さない。なるべく深部から新鮮な滲出液を採取しましょう。

各部位の採取の注意点

その1 皮膚の材料の採取

皮膚、軟部組織感染症(開放性感染巣)



創部や潰瘍など開放性の病巣は、表面部から採取せず、**深部**を綿棒で拭って、注意深く分泌物を採取する。

皮膚、軟部組織感染症(閉鎖性感染巣)



膿瘍の場合は、穿刺部位を消毒し、注射器などで穿刺して**膿瘍壁に近い部位**から採取する。

次回は各部位の採取注意点その2から

知っておいたほうが良い

マスクシリーズ 1



TV番組とかでも日本人はマスクをする人が多くて驚いたって外国人の意見をよく聞きますが、その理由はなぜなのか？

感染の予防の為や人に風邪をうつさない為にマスクをするのは、日本人ならごく普通の当たり前の感覚だと思うのですが、どうやら世界の多くの国の人々は日本人ほどマスクをしないみたいです。公共の場所で大勢がマスクをするのは日本独特の習慣なんだとか。

マスクは、近年性能やデザインが向上して、季節をあまり問わずに使用されるようになってきました。

マスクの種類

用途によって「家庭用マスク」「医療用マスク」「産業用マスク」の3種類に分けられます。

家庭用マスク

インフルエンザやカゼ対策、花粉対策、防寒などの目的で日常的に使用されているマスクが家庭用マスクです。素材や形状、サイズがとっても豊富で、フィルター性能と通気性のバランスもよく、長時間快適に使用できるマスクです。

不織布マスク

不織布（ふしょくふ）マスクとは、「織らない布」で作られたマスクのことです。（“不織布”＝「織っていない布」：繊維を織らずに機械的・化学的手段等で繊維と繊維を絡ませたりして作る）品質が均一で粒子の捕集性が高く、通気にも優れています。

新型インフルエンザ対策として、厚生労働省

が備蓄を推奨しているマスクです。

大きく分けて、プリーツ型（フラット型）と立体型があり、メーカーによって1～4層構造と、単純な構造のものから高性能なものまで幅広くあります。

ガーゼマスク

ガーゼマスクとは、綿織物を重ね合わせた、家庭用マスクとして古くから使われている素材のマスクです。

高い保湿性と保温性があります。

粒子の捕集性や飛散防止といった機能に加え、睡眠時やエアコンの効いたオフィスなどで、乾燥からノドを守るのに役立ちます。最近では、中に特殊なフィルタを縫いこんで、花粉を防ぐものも増えています。

医療用マスク

主に医療行為を行う従事者や、医療用（感染予防・病気予防）としてカゼや花粉症の患者が用いるマスクです。

手術や処置などの医療行為を指す“サージ”という言葉から、サージカルマスクとも呼ばれています。

産業用マスク

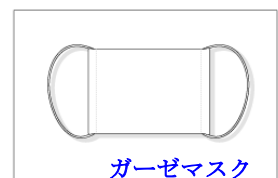
主に工場などで作業時の防塵対策として使用されるマスクです。

粉塵・ミストなどを吸引しないようにする目的のもので、顔とのスキマを作りにくいようにカップ型のものが多いです。

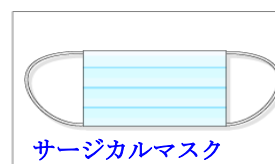
鼻や口だけを覆うものから、顔面全てを覆うものまで用途によって種類は様々です。



不織布マスク



ガーゼマスク



サージカルマスク



産業用マスク